色んなものを見てみよう

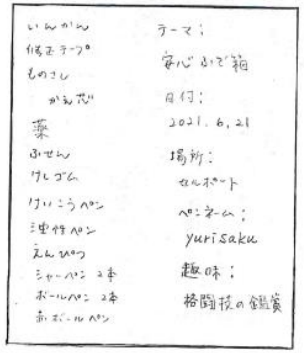
2021.6.21(月)

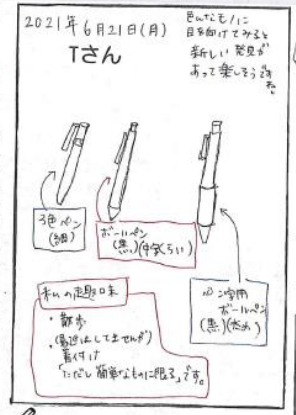
セルポート考現学

2021年6月

考現学って？

今から約100年前の大正末期に今和次郎という早稲田大学の建築の先生と仲間達によって生まれた学問、研究です。「考古学」が遺跡や出土品など古い者から過去の人間の生活や暮らし、文化を研究するのに対して、「考現学」は現在の人の暮らしや文化を、観察・採集し、ありのまま記録し、研究します。↘

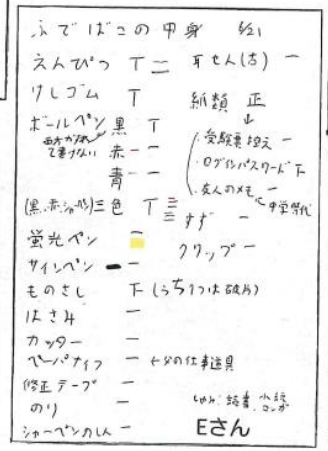


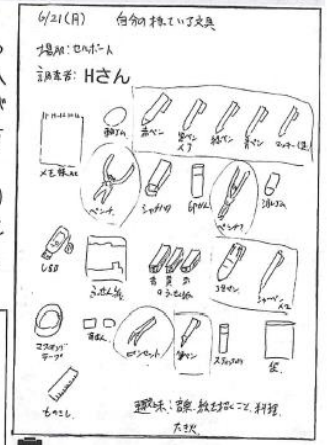


6月から新職員になった山田は「考現学」を趣味としています。6月19日の3限目に山田との親睦を兼ねて、「考現学」のレクを行いました。簡単な「考現学」の説明や過去のいろんな研究を紹介した後に、参加者に自分の筆箱の中身または持っている筆記用具を葉書に記録するという調査をしていただきました。↗

いざ記録してみると、思った以上に入っていたり、なぜ入っているのか分からないものが出てきたり、と皆さん楽しそうに記録してくださりました。

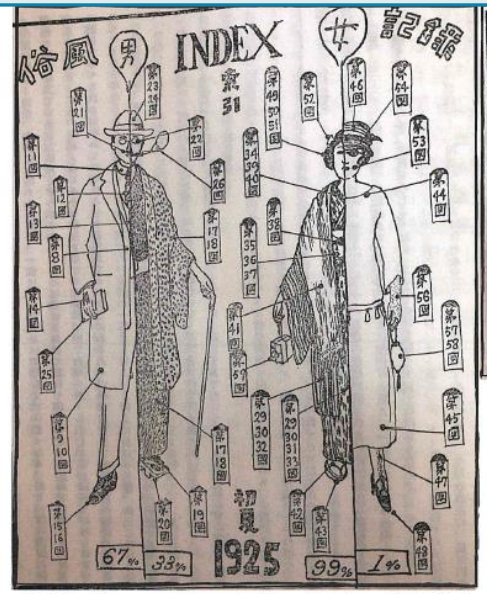
記録は文字で書いていただいたり、絵を描いてくださったりと自分のやりやすい方法でしてもらいました。↘



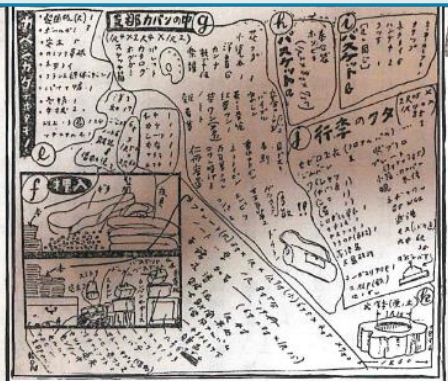


中には工夫して持ち物を分類してくださった方もいらっしゃいました。興味を持たれた方は自分の筆箱を調査してみて見せてくださいね。

時間が合わなかったり、急に予定ができて参加できなくなった方もおられました。リクエストが多ければ2回目も開催してみようかな。



今和次郎たちは約100年前、1925年の東京銀座に歩く人を調査しました。銀座は当時も最先端の流行の街でした。ほとんどの人が着物を着ていた江戸時代から60年経っていました。この図の下の数値は左からが男性の洋装、和装、女性の和装、洋装の人の割合です。洋装は男性は半分以上でしたが、女性はたった1%でした[Aより]



家の押し入れの中や鞄の中の調査[Aより]

おばあさんの履き物調査[Bより]

名古屋での黒い服を着ている人の調査[Cより]

●レクで紹介した本●

A:今和次郎「考現学　モデルノロヂオ」
※「考現学入門」という文庫本にも同内容が掲載
B:岡本信也・岡本靖子「町のけんきゅう」「超日常観察記」
C:現代風俗研究会「駅前観測」
※もう売っていない古い本もありますが、図書館にあるものもあります。

参加してくださった方々からは、その後もレクに関した事を色々話しかけてくれました。